

# GCL NEWSLETTER 第 2 号 (2013.11)



## GCL ラボ構想

## 起業報告第 1 号「Leopard」

## GCL ランチタイム第 3 回 授業紹介

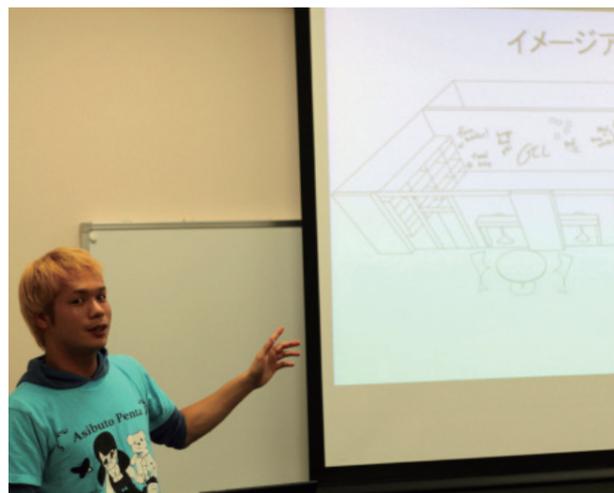


## ■第二回学生交流会 / GCL ラボ構想

10/25 (金)、GCL コース生の交流を目的とした、第二回学生交流会(幹事・岩尾俊兵さん(経済学研究科 M1))が開催されました。当日は 20 人を超える学生・教員が集まり、近況報告および意見交換を行いました。

学生による発表では、3名の学生による発表があり、近藤大嗣さん(学際情報学府 M1)からはこれまでの進路選択の経緯と GCL への意気込みについて、施井泰平さん(学際情報学府 M1)からは自身が運営するアーティストのための SNS「startbahn (http://startbahn.org)」についての説明がありました。

最後に、GCL コース生向けの共有スペースとなる「GCL ラボ(仮称)」について、プロジェクトリーダーである田中義丸さん(情報理工学系研究科 M1)から話がありました。以下ではその発表内容について報告します。



### ■GCL ラボについて

#### ●田中さんによる紹介

GCL の共有スペース「GCL ラボ(仮称)」では学生からのアンケート結果を踏まえ、3つのコンセプトを考えています。それぞれ「リスタートアップ」「知の共有と成長」「GCL および東大のブランディング」です。

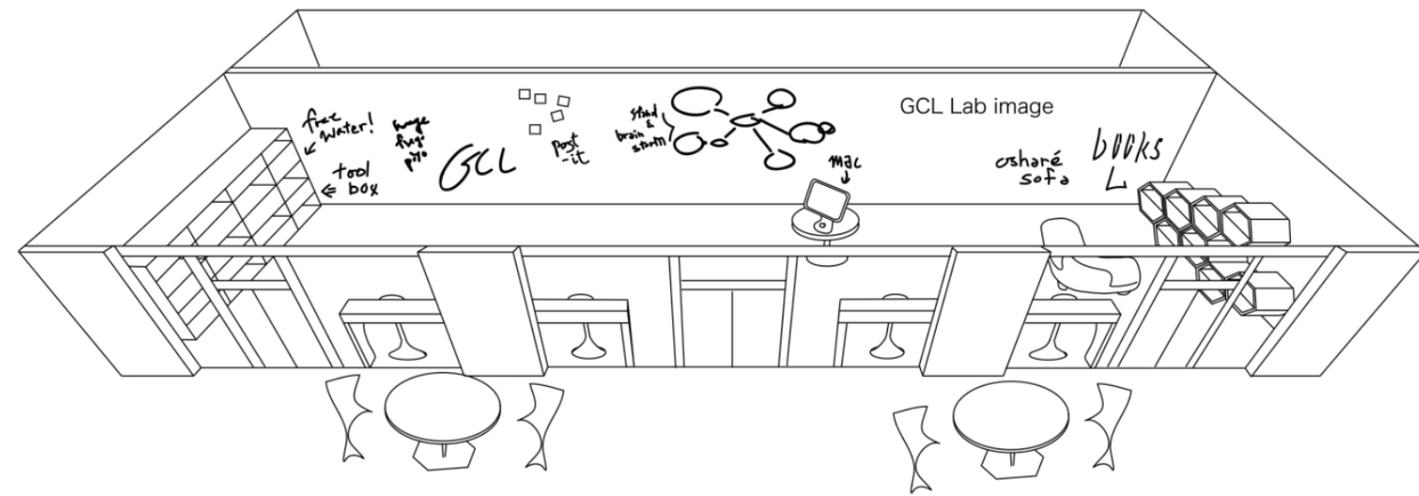
「リスタートアップ」とは、シリコンバレーでの最近のスタートアップ企業の傾向として、無駄がない(= Lean) 最低限の投資でスタートし、成功すれば投資を増やす例が多く見られます。それに近い形で GCL ラボにおいても、シリコンバレーの起業家のような精神をもったメンバーの活動の場になればと思います。

2つ目の「知の共有と成長」は、GCL にはさまざまな専攻の学生から構成される一方で、同級生がどのような研究を行っているかが知られていない現状があるので、学生の交流の場になればと思います。気軽に集まれ、イベントなどを開催できる場にすることで新たなコラボレーションが生まれることを意図しています。

3つ目の「ブランディング」は、この GCL ラボが東大内で注目される場所となることで、GCL および東大のシンボルとなる場所にしたいと考えています。

GCL ラボは 12 月の完成を目指して現在準備中です。よろしくお祈りします。

GCL ラボ構想について紹介する田中さん  
(撮影・須原宜史)



GCL コース生の笹渕一宏さん(学際情報学府 M1)の手による、GCL ラボ(仮称)イメージ図

#### ●GCL ラボの魅力とは

現在、田中義丸さんをリーダーに 5 名の学生が中心となって GCL の共有スペース「GCL ラボ(仮称)」の完成に向けて準備が進められています。12 月に公開予定のこの GCL ラボについて、広報企画で魅力取材しましたのでご覧ください。

#### ◆魅せる場所

GCL ラボの最大の特徴はその場所です。工学部 3 号館 1 階の広場の一辺全てが GCL ラボの場所となり、全面ガラス張りの窓から中の様子が見られる作りとなっています。さらに内装においても、一面をホワイトボード化するなどのデザイン面での工夫をすることで学生が憧れる場所、GCL および東大のブランディングにつながることを目的としています。

#### ◆集う場所

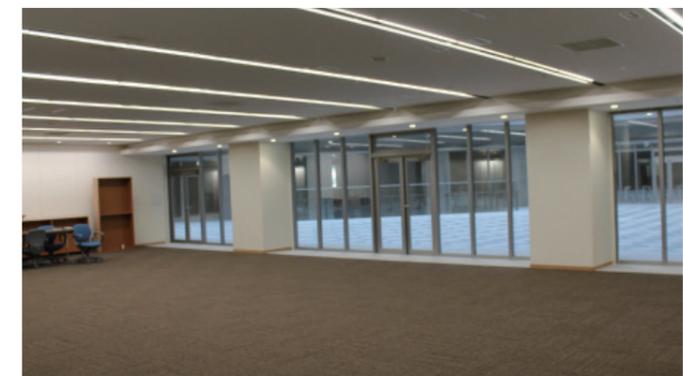
GCL にはさまざまな分野の学生が在籍していますが、お互いが行っている研究内容を知る機会は多くあ

りません。GCL ラボが気軽にコース生が集まる場となることで、学生の意見交換や勉強会の開催場所、GCL プログラムのグループワークの場所としての利用が期待されています。

#### ◆創る場所

GCL ラボでの学生の交流やグループワークを通して、新たな研究やプロジェクトのためのアイデアが生まれる場所になることを予想されます。そのために、ホワイトボードのログ管理や壁のポストイット化など、アイデアが刺激される工夫を設け、GCL 生にとってよりよい学びの場、作業の場となる準備を行っています。

その他にも、魅力的な GCL ラボの完成に向け、さまざまなアイデアが現在準備中です。12 月の完成が楽しみです!



「GCL ラボ(仮称)」予定地の外観(左)と内観  
(撮影・須原宜史)



Leopardの展望を語る岩尾さん（撮影・森友亮）

## ■起業体験談

# Leopard (岩尾俊兵)・第1回

ビジネスを立ち上げ、社会にイノベーションを起こす——GCL コース生の中には、起業を志し、さらにはその実現を果たしたメンバーもいます。

起業報告の第1号として「Leopard」を立ち上げた、GCL コース1期生の岩尾俊兵さん（経済学研究科 M1）。起業の経緯と、今後の展望を連載で執筆してもらいました。

### ◆起業体験談の執筆にあたって

GCL から起業した第1号として起業体験談を書いてほしい、と GCL 事務局から頼まれたとき、僕は「了解です!」と即答してしまったが、その2秒後には後悔の気持ちが押し寄せていた。法学部の学生ならば「今の返事は錯誤に基づく心裡留保であったので、意思の不存在を確認したい」旨を伝えたかもしれないが、僕は民法93条に従って、心裡留保も原則として有効であるという立場をとった。平たく言えば「言ってしまった以上はきちんと仕事をする」ことにしたのだ。

起業体験談を話すというのは、気恥ずかしい。学生起業家といえば六本木のクラブでアゲだのサゲだの言っているというイメージが定着している。大体、現時点で利益なんて全く出ていないし、そもそも売上金も回収できていない。起業をするだけならば、定款という会社における法律を書いて、公証役場に行って、

法務局に行って、税務署に行って、区役所に行って、銀行に行って……という手間と20万円ほどの印紙代で済んでしまう話である。

そこで、ここでは起業体験談の体裁を取りつつ、GCL メンバーの紹介と、プロジェクトを進める上でのマネジメントの実践的な手法を紹介するという大義名分のもとに文章を進めていきたいと思う。

### ◆「GCL」の衝撃

初めて GCL の説明会に参加したとき、僕は心臓が止まるかと思った。日本にグーグルやアマゾンが誕生するのは時間の問題だと思った。僕はどうしてもこの興奮を父に伝えたかったが、その父はもうこの世にはいなかった。GCL には面白いアイデアを持った人がたくさんいるし、それにつられて、普段は秀才な GCL 以外の東大の院生も GCL の授業では羽目を外す。「アイデアがある人誰もが投稿できてダメな論文は淘汰されるバーチャル学術誌を作りたいね」「人の脳内の知識を検索できるサービスとかいいんじゃないかな?」「音楽を聴きたい人にだけ届けるギターが作れないか」「Google マップを使って都市生成ゲームをやろう」といった突飛な議論が毎日どこかで聞こえてくる。大事なのは一つ一つのアイデアの良し悪しではない。議論できる雰囲気、アイデアを真面目にきく雰囲気がある

のだ。

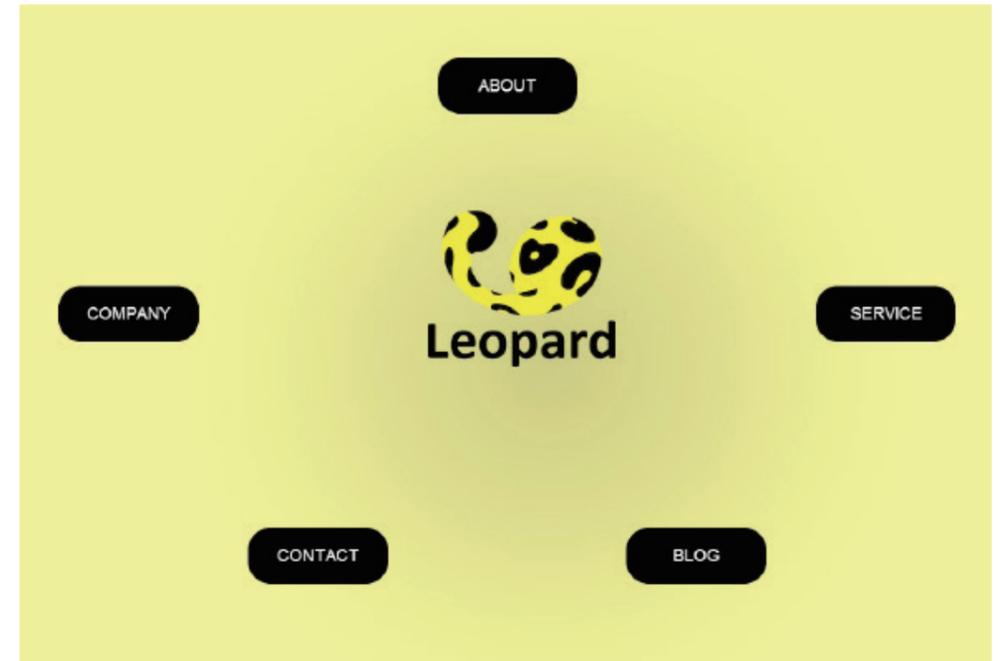
とはいえ彼らの見方はシビアでもある。GCL では常に自分の存在意義を問われる。経営専攻の僕には「経営専攻なんだから市場分析と税務と会計と法務と総務と営業やってね」と笑顔で言われることは日常茶飯事だ。自分はどの分野の専門家で、プロジェクトに、ひいては社会にどのように貢献できるのか、ということは嫌でも意識するようになる。

### ◆近代最大の発明「株式会社」

そこで僕は近代最大といってもいい発明、すなわち

株式会社という一種の情報処理装置の設計・プログラミング・保守運用という分野でまずは貢献すべく、修士2年以降の社会イノベーションプロジェクトの準備として起業という選択を選んだのであった。そこで待ち受けていたのは、次から次へと現れる障壁の連続なのであった……。

（本文執筆・岩尾俊兵さん（経済学研究科 M1、Leopard 代表取締役パートナー））



Leopard 株式会社ウェブサイトのトップページ  
<http://leo-inc.com/>

※本連載への感想や、質問などについては、

GCL 広報企画

[pr\\_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp](mailto:pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp)

までお寄せください。

GCL Newsletter では、GCL コース生のさまざまな体験談を募集します。

ご興味がおありの方は、上記連絡先までご一報ください。



第3回GCLランチタイムの様子(撮影・後藤昂彦)

## ■ GCL ランチタイム

GCLの担当教員とコース所属学生の交流促進を目的とした昼食会「GCL ランチタイム」。今回は10/18(金)に行われた第3回の模様をお伝えします。

●第3回 廣瀬 通孝 教授 (情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻)

10/18(金) 12:15-12:55

第3回の今回は、廣瀬通孝教授にお越しいただき、コース生の田中義丸さん、茂木裕さんとの昼食会を行いました。前回とは打って変わって今回は、宮崎駿監督の『風立ちぬ』をはじめとするエンターテインメントの話題が中心となりました。

### ＜参加した学生の皆さんの感想＞

・田中義丸さん(情報理工学系研究科 M1)

今回は巷で「あの人」という二つ名で有名な廣瀬先生と貴重なランチタイムを過ごさせていただきました。今回は研究のことというよりは、主にエンターテインメントについて幅広いテーマで談笑させていただけたと思っています。廣瀬先生からは、興味の範囲を広げ、研究だけに留まらない好奇心の旺盛さを持続けることが、研究者やイノベーターとして非常に重要であるということを実感させていただけたと思っています。

・茂木裕さん(公共政策大学院 M1)

GCL ランチから得た+とーの感想を書きたいと思

います。

まず、公共政策を勉強している自分にとって「世の中」で共有されている感覚や情報を知らないとマズイと感じました。これは、『風立ちぬ』の映画の話をしているときに得た感想です。教授は映画のあらゆるシーンで自身のアンテナを光らせていたのに対し、僕は単に映画を映画として鑑賞したのみでした。

とはいえ、何も議題を設定せずに行う今回の形式では何を話してよいかわからない面もあり、事前に「共通の話題」が提供されているとずっと話しやすかったです。

廣瀬先生、貴重なお時間をどうもありがとうございました！

次回のGCLランチタイムでは、茂木さんのご意見を反映し、話題を提示した上での募集を行う予定です。詳しくは後日メールでの案内をご覧ください。

それでは、次回もお楽しみに！

※ GCL ランチタイムへのご意見・ご要望などは、GCL 広報企画 pr\_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp までお寄せください。

## ■ 授業紹介

●情報理工学英語特別講義 I 「新産業情報論」

科目名：情報理工学英語特別講義 I 「新情報産業論」 (2単位)

担当教員：田中正躬・藤野仁三・大来洋一・藤澤浩道・池田宏明

講義室：工学部2号館10F電気系会議室5

開講日：金曜3限13:00-14:30(10/4開講)

講義使用言語：英語



TA 学生による授業紹介(執筆・茂木裕(Yutaka, MOTEGI)さん(公共政策大学院 M1))

GCL 英語講義「新情報産業論」は、今なお拡大する「情報」産業を多角的な視点から分析する視点を提供してくれます。この授業を通じて得られる4つのメリットを僕なりに書きます。

第1に、政治・経済・社会・IT系の必須英単語が続出するので、英語力がアップします。第2に、様々なデータが授業で示されるので、日常会話で引用すると説得力が高まります。第3に、この講義は東大外部の複数の先生が行っているの、普段耳にしないような情報や知見に触れることができます。第4に、授業のほとんどを海外留学生との交流が占めます。これが間違いなくこの授業をとる最大のメリットです。彼女/彼らは、大きな問題意識を抱えて「わざわざ」日本に来ています。対話を通じて、留学生が考えていることを知ると、僕自身とても刺激を得ます。以上の4つの私益を得たい方、授業の参加、お待ちしております！

講義の様子。国際色豊かな学生が集まる(撮影・茂木さん)

## ■ GCL コース生の声

◆【GCL関係者向け】GCL忘年会(第3回学生交流会)のお知らせ

皆さん、こんにちは！茂木裕(Yutaka, MOTEGI)です。現在、公共政策大学院で勉強をしています。今後、接するコトがあったらよろしく願いいたします。

来たる12/10(火)に「GCL忘年会」が開催されます！今回は、GCLコース生が選抜される前に行われる最後の「大きなイベント」なので、色々なアトラクションを用意しています。洒落乙なラボ、音楽、コスプレを楽しめちゃうかもしれません。なので、この日の夜だけは予定を空けてください。皆さんと会えることを楽しみにしています！

以下が概要です。

日時：12/10(火) 20:00-22:30

場所：GCLラボ(工学部3号館)

予算：学生1000円

内容：1時間の学生発表を終えてから、そのまま立食形式のパーティをします

参加方法：party@gcl.i.u-tokyo.ac.jpに連絡ください

ありがとうございました。



## ■ イベント告知

以下のイベントが開催されます。

詳細や最新の情報については GCL 公式ウェブサイト (<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

### ● 2013/11/18 Global Design Symposium: 「マイナンバー制度に関するシンポジウム」

主催：東京大学 情報理工学系研究科, 情報学環, 法学政治学研究科, 公共政策大学院

共催：東京大学ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム

共催：東京大学 情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター

日時：11/18 (月) 13:00-17:00

場所：東京大学 弥生講堂 一条ホール

マイナンバー法の制定・施行に伴い、法律・マネジメント・技術の各分野において、本邦を代表する専門家を招き、講演・パネルを行って、現状と課題、将来展望について議論する。

問合せ先：gd\_symposium@adm.i.u-tokyo.ac.jp

### ● 2013/11/27 Global Design Symposium: シンポジウム「ICT を生かした社会デザインと人材育成 (実践編)」

主催：情報学委員会情報ネットワーク社会基盤分科会

共催：東京大学 ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム、電子情報通信学会 東京支部 (予定)

後援：大阪大学、電子情報通信学会、情報処理学会 (予定)

日時：11/27 (水) 13:30-17:40 (予定)

場所：日本学術会議講堂

本フォーラムでは、我が国の ICT 人材育成に携わる取り組みの主催者と、その人材を受け入れる企業、対象となる学生、政策立案者をまじえ、ICT に携わる新たな人材像とその育成について議論を行います。

### ● 2013/11/28 Global Design Symposium: Future LTE and network optimization for M2M support

主催：東京大学ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム

共催：エリクソン・ジャパン株式会社

日時：11/28 (木) 13:00-20:00

場所：工学部 2 号館 221 講義室

ネットワーク技術の分野では、仮想化と M2M/IoT をキーワードに世界規模で研究開発が進んでいる。また、社会における様々な物がネットワークに接続され連携し、人間の生活を一層便利かつ豊かにするような社会基盤にネットワークが進化するのはいかなる蓋然性が高いものとして一般に認識されている。たしかに、過去 10 数年のモバイル通信技術の進歩は、人と人をつなぐという観点からはまさに驚異的という形容にふさわしい。しかし、M2M/IoT 自体は日本でも十数年前にユビキタスネットワークとしてかなり大規模に研究開発されたものであり、テーマとして新しいものではない。むしろ、一回りして新しい開発潮流となって帰ってきたテーマと見なす方が自然である。開発テーマがより絞られたのが M2M/IoT の潮流といえる。

このシンポジウムでは、モバイル通信技術の進化の行きつく先としての M2M/IoT の将来像を、ITS などの様々なサービスの将来像とともに共有する。また、この社会基盤の発展を支える将来のモバイル通信技術やサービス高度化技術に関して、将来 LTE と無線ネットワークの最適化、M2M/IoT データ分析とサービスシステム制御の自動化、接続された物と人間との相互関係の有り方などを議論し、さらに国際的な研究協力の推進を目的として、シンポジウムを開催し、M2M/IoT 再興の意義を検討する。

問合せ先：GCL プロジェクトインキュベーション機構 ([gcl\\_pim@adm.i.u-tokyo.ac.jp](mailto:gcl_pim@adm.i.u-tokyo.ac.jp))

### ● 2013/12/03 Global Design Symposium: シンポジウム「情報センシングの展開 ～HCI から Urban Informatics まで～」

日時：12/3 (火) 13:30-17:00 (開場：13:00)

場所：福武ホール/福武ラーニングシアター

身近な情報環境で起こっている新しい展開を、個人視点、都市環境視点から論じる共同シンポジウムを MSRA と共同で開催する。現実の問題を議論し、クリエイティブリーダーを育成するための材料を提供する。

編集・発行：

情報理工学系研究科・GCL 広報企画

(森友亮 (情報理工 M2)、後藤昂彦 (情報理工 M1)、金子和正 (工 B3)、須原宜史 (工学系 D2))

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部 8 号館 621 号室 GCL 事務局

E-mail: [pr\\_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp](mailto:pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp)